

令和6年度第2回社会教育委員会会議 議事録

令和7年3月18日(火) 14時00分～15時50分

会場 本山地域交流センター 会議室

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料の確認</li> <li>・委員14名中11名の出席で、本会議が成立することを確認</li> </ul>
教育長	教育長あいさつ
委員長	委員長あいさつ
事務局	<p>3報告(1) 山口県功労者表彰、山陽小野田市表彰です。</p> <p>山口県教育功労者表彰は、山口県が社会教育の振興、学校保健の振興に関し、顕著な功績があった方を表彰するもので、このたび吉本委員長が受賞されました。吉本委員長は、本市の社会教育委員を山陽町時代の昭和59年から現在までの29年という長きにわたり務めていただいていること、令和3年に公民館の地域交流センター化が計画される中で、社会教育の維持・発展のための方途について協議を重ねられ、協議の結果を提言書にまとめ教育委員会に答申をいただくなど、本市の社会教育の発展に寄与していただいたことにより受賞となりましたので、ご報告させていただきます。また、山陽小野田市表彰は、市の振興発展に功労顕著な方を表彰するもので、この度平中委員が受賞されました。平中委員は、本市の社会教育委員を平成21年から現在までの15年という長きにわたり務めていただいております、地域づくりに貢献していただいていること、社会教育に尽力されていることにより受賞となりましたので、ご報告させていただきます。</p>
事務局	つづきまして、次第の3(2)に移ります。ここからの議事の振興につきましては、吉本委員長にお願いします。よろしくお願いします。
委員長	それでは、3番の報告事項(2)「第77回優良公民館表彰受賞(文部科学大臣表彰)【本山地域交流センター】」について説明をお願いします。
事務局	<p>資料の(1)(2)(3)をご覧ください。</p> <p>毎年、文部科学省が表彰をしております全国優良公民館表彰において、今年度、本山地域交流センターが受賞しましたので、ご報告させていただきます。</p> <p>まず、優良公民館表彰とはというところですが、資料1でもお示ししているとおり、文部科学省が毎年行っているもので、公民館やその他公民館と同等の社会教育活動を行う施設のうち、特に事業内容・方法等に工夫を凝らし、地域住民の学習活動に大きく貢献していると認められるものを優良公民館として表彰しております。</p> <p>資料2をご覧ください。今年度は全国で65の公民館等の施設が受賞しており、山口県からは長門市の油谷公民館、周防大島町の久賀公民館、それと本市の本山地域交流センターの3館が受賞しております。</p> <p>本山地域交流センターでは、本山地区を活性化するため、地域や学生ボランティアの力を借りて、世代間交流や子育て支援、子どもたちの居場所づくりに取り組んでおられます。</p>

本山地  
域交流  
センター  
一長

皆さん、こんにちは。大変好天の中、端にある本山までようこそおいでくださいました。大変お世話になっております、本山地域交流センター長の城戸でございます。優良公民館表彰についてご報告いたします。

この会議が開催されるのを待っていたように、昨日盾と表彰状が届きましたので、委員の皆様にご披露いたします。大変立派な賞をいただきました。地域の方々、多くの方々に支えられたものと感謝申し上げます。

文部科学省には「0歳から100歳までが集うセンター」ということで報告をさせていただいております。この本山、市の南端という地理的には大変不便なところがありますが、焼野海岸が日本の夕日100選に選ばれたように景観に非常に優れております。また、本山岬に行けば奇岩のくぐり岩があり、天気の良い日は九州まで見渡すことができる竜王山があります。さらに、市内唯一の海水浴場である「きららビーチ焼野」もあり、夏場は大変多くの人で賑わっています。私は以前本山小学校に3年間務めさせていただきました。令和4年に久しぶりにこの地域交流センターに着任させていただきましたのですが、その時に、急速に人口減少・少子高齢化が進んでいるなど感じました。私がいた頃は本山小学校の児童も200人近くいたのですが、今は100人に近づいておりました。市が出した将来推定人口よりも早く人口減少が進んでいます。

それから年少人口割合も市全体よりも低いです。逆に老年人口割合は市全体よりだいぶ高いです。少子高齢化も急速に進んでいます。また、コロナ禍が収束しかけて地域行事が少しずつ戻ってきたんですが、コロナ禍で地域行事や活動の参加者や担い手が極端に減少しているなど思いました。高齢化も進んでいて、地域行事も参加できないという方もたくさんいらっしゃいました。こういうことで地域の活気がずいぶんなくなっているなどということも、感じました。

そのような中で令和4年度から公民館が地域交流センターとなり、「持続可能な地域づくりを推進してください。」というテーマを与えられました。

どうすれば持続可能な地域づくりが出来るのか、この活気を失われている地域をどうすればまた活気を取り戻せるのだろうかずいぶん悩みました。

地域の活気を取り戻すためには多様な世代を交流させる必要があるのではないかと。地域行事や活動の参加者や担い手が減少している。コロナ禍以前に戻すというのは難しいので、もう一度活気を取り戻すにはどうしたらいいのか、と考えてひっくり返してみました。今まで地域行事に参加して楽しんで子どもたちに地域行事を担ってもらおう。逆に今まで地域行事を担ってくださった地域の大人たち・高齢の方をそこから解放して、地域行事に参加して楽しんでもらおう。参加者と担い手をそっくり入れ替えました。そうやって世代を超えて交流したり、今までやっていなかった地域行事を子どもたちが担っていくことで、RMOができた時に普通に全員参加の地域づくりができるのではないかと考えて、取り組みをスタートさせました。まずやったのは「本山おもちゃ図書館」。これのスタートは地域の方がある日突然、センターにやってきて「この度退職するにあたり、センターで子育て支援をしてみたい」という相談にいられました。とても嬉しかったです。地域のために頑張ろうという思いを持っ

ておられる方がこの地域にいるのだな、何とか実現したいなと思いましたが、そこで問題になったのが今までセンターに来られるのが99%高齢の方でした。幼い子どもたちを連れてお父さんお母さんがセンターに顔を出すことがまずありません。どうすればこの方たちにセンターに集まってもらって子育て支援ができるかな、と思った時にやはり親を引き付けるのではなくて、子どもたちがセンターに来て楽しんでくれる、そういう部屋をつくったらどうか、ということで日本おもちゃ図書館財団というところに応募して、助成をもらっておもちゃいっぱい部屋を作りました。図書館を作る資金10万円ほどいただきましたし、おもちゃの新品のものを20万分くらい届きまして。また地域からたくさんのおもちゃを寄付していただきまして子どもたちが楽しめる場所を作りました。そこに、若いお父さん、お母さんがセンターに子どもたちを連れてくるんですね。それで一人では大変だからボランティアを募ろう、そうしたところ地域の中から調理師だったり看護師であったり、児童指導員だったり様々な特技や資格を持った方が集まりました。9名のボランティアと書いてありますが、実際には今週やってみたいという方10名の地域のボランティアが集まっています。子どもたちと一緒に子育て支援の様々な取り組みを行い、今では平日でも普通に若いお父さん、お母さんが乳幼児を連れてセンターにやってきます。

続いてeスポーツの体験教室。本山の利点の一つに山口東京理科大学が近くにあるということがあります。この学生さんたちを何とかセンターの様々な運営や活動に取り組むことができないかな、とすぐに大学の地域連携室に相談に行って、薬草の講座なんかをしてもらいましたが、学生さん達にeスポーツで地域の方たちに交流してもらおうと考えました。このeスポーツも地域の高齢者と子供、大人と子供がペアを組んで、世代間交流をしながら助け合って相手チームと対戦するという形で交流を深めました。その中で理科大生が入ってきて、上手に間をコミュニケーションで繋いでくれました。このeスポーツ、ずいぶん本山に一生懸命やってくれる方が増えました。夏休みもこのeスポーツの体験ルームを作っていたら、興味を持った高齢者が来てやられています。そこに中学生が来て一緒に楽しんでやり方を教えている。理科大生もセンターに顔を出してくれるようになって、子どもたちに勉強を教えてくれたりしました。夏休みには、かき氷パーティーを理科大生と小学生が行い、交流をもちました。

それから長期休業中に空いている部屋を使ってスタディールームとして、自習する部屋を用意しました。今年の夏は本当に猛暑だったので、家で一人エアコンをかけて勉強するよりもセンターに来てみんなと一緒に勉強した方が家の人も喜ぶよ、と話したら、本当にたくさん子どもたちが来てくれました。本年度の夏休み利用者498名でした。夏の終わりに台風が来たので500名に行かなかったのですが、すごい数です。それと理科大の学生ボランティアが50名以上参加してくれました。理科大生が子どもたちにマンツーマンで付いて勉強を教えてくれているので、何とかこの頑張りにご褒美をあげたいなという

ことで、冬休みだけですが地域のボランティア団体「ひまわりの会」に温かいお昼ご飯を作ってもらえないかとお協力をお願いしました。最初「素うどんだけでいいです」とお願いしていたのですが、ボランティアの方がやる気を出して唐揚げやちゃんぽん、カレーライスを作ってくれて、子どもたちは大喜びでした。こうやって大学生と子どもたち、地域のボランティアの方と交流を行いました。

それから地域行事です。先ほどひっくり返したと言いましたが、小中学生に運営を任せてみました。盆踊りでは、中学生に司会進行や受付、仮装大会の審査もしてもらいました。小学生も今まで出店に来てゲームや買い物などで楽しんでいたのですが、小学生に出店のお手伝いをやってみたら？とお願いし出店をやってもらいました。1、2年上手くいったのでこれならうまくいくな、と思ったので、本年度から実際にお金のやり取りをして出店の運営をしてもらいました。出店の収益が上がったものについては、学校で必要なものを買ってもらいなさいということで、子どもたちはずいぶん頑張ってお店の運営をしていました。

それから秋になりましたら、10月竜王山ウォークとあってきららビーチから竜王山に向かって、アサギマダラを探しながら本山岬まで行って戻ってくるというウォーキング大会を運営しているのですが、小学生が準備運動の体操係を、中学生の元気のいい男の子が先導をしてくれました。それと中学生と理科大生が受付、大学生がお昼ご飯の準備をしてくれました。

9月30日にRMO「本山地区を愛する会」、愛称ですが設立しました。今年度の門松づくりには小中学生、若いお父さんお母さんも参加してくれました。取り組んでいくうちに年代層が変わってきました。センターとしては、若い世代がセンターに入ってきてくれることで、若い世代の意見を取り入れた運営が実現できるようになりました。子どもたちは地域の方々に支えてもらっているという感謝の気持ちとか地域の愛着心がだんだん育ってきているようです。主に中学生ですが、自分たちが主役になって活気ある地域を創ろうという意識が育っているように思えます。大学生は子供達や地域住民との触れ合いでコミュニケーション能力が向上しています。きっと将来職業に就いたときに役立つだろうと思います。それから地域住民や高齢者は、若者と触れ合ったり地域に役立つたりすることで、生きがい作りが進んでいます。

この写真は、本山小学校の海の学習に参加した時に、赤白帽子のゴムひもが伸びている子が多いなという声があったため、センターの手芸クラブの方々に「本山ばあちゃんお直し隊」という特別なチームを作ってもらい小学校で帽子等の手直しをしてもらったものです。制服に穴が開いている子もいたので一緒に直してくださいました。また、地域に隠れている人材がたくさんいるのではないかと地域の方に、自分が今までの仕事とか趣味とかで身に付けた色々な知識や技術を他の人にぜひ伝えてくださいということで講師を募集した「生き生き講座」を来年度開催します。今7人から「これを教えたい、これを一緒にやってみたい」ということで応募がありました。

	<p>それからもう一つはセンターにWi-Fiが設置されましたので、その設備を活用してセンターでの学びを地域全体に広げていきたいと思っております。RM OのYouTubeチャンネルも立ち上げました。本山地域の大変美しい空撮の動画も入っていますので、是非ご覧ください。それから新年に初笑いの落語会ハイジさんをお招きして、小学生1学年に見に来ていただきました。全員が来られないので、タブレットを持ってきてもらってオンラインで学校に配信してもらいました。センターに来られない子供たちは、学校の教室で落語を楽しむというようなこともしました。スタディールームでもタブレットとかパソコンを持ってきている様子がよく見られるようになりました。</p> <p>「端と端 対決!」とありますが、本山は南の端ですが北の端に川上地区というのがあります。そこでもeスポーツをやられているので、オンラインでつないでeスポーツ対決をしました。これも大変盛り上がりました。こういうWi-Fiとかも活用しながらどんどんセンターで学びを広げていきたいと思っております。以上です。ご清聴ありがとうございました。</p>
事務局	<p>城戸センター長、ありがとうございました。城戸センター長に拍手をお願いします。それでは、質疑に入りたいと思いますが、委員の皆様、何かありませんでしょうか。</p>
委員	<p>すみません。大変有意義な活動をされていることがよく分かりました。春休みと冬休み、理科大の方からボランティアで来てくださることで、これは延べ人数ということですか。また、小学生も延べ人数でしょうか。また、キッチンのところですが、材料費等どういうふうに支出なさっているのか教えてください。</p>
本山地域交流センター長	<p>延べ人数になります。キッチン本山の材料費は主に自治会協議会が出してくださっています。それ以外については地域に募集をかけたら、お米が30キロとかあるいは食材が2万円とか寄附をいただいて、それでデザートまでいただいております。</p>
委員長	<p>それでは報告事項の3番目「第46回中国・四国地区社会教育研究大会徳島大会について」、報告をお願いします。</p>
事務局	<p>資料は4になります。11月28日(木)及び29日(金)の2日間、徳島市の阿波銀ホールにおいて、第46回中国・四国地区社会教育研究大会徳島大会が開催されました。本市からは、富永委員と社会教育課課長補佐が参加しております。2日目は、それぞれが分かれて分科会にも参加しております。初日のシンポジウムと分科会を併せて、まず課長補佐から復伝をお願いします。</p>

課長補  
佐

資料の方をご覧ください。徳島大会の資料6ページです。開催要項からです。この大会のスローガンは『「阿波から巡り 共に歩もう！」学び 支え つながる社会教育』と掲げ、研究主題としては、「誰もが輝き、活躍できる人づくり つながりづくり」でした。その背景には近年、地方の活力が低下し、コミュニティや地域文化の崩壊が危惧される中、「人生100年時代」と呼ばれる長寿社会において、高齢者を含めたすべての人々が活躍できる機会や場所が求められており、多様な主体が連携、協働することで持続可能な社会が実現されることが期待されます。

徳島大会では研究主題のもと、徳島県内で活躍されている団体の実践例を共有し、これからの社会教育の推進に向けた取り組みについて協議しました。

それでは12ページをご覧ください。

1日目は「基調講演」として認定NPO法人グリーンバレー 前理事長のお話でした。徳島県神山町は徳島市から約40分の間山間に位置しています。過疎化が進み消滅可能性自治体として挙げられており、この条件不利地における地域づくりの中でこの前理事長さんは自分の役割は何かを考えながら、活動を続けてこられたそうです。2004年にNPO法人グリーンバレーを設立し、高速インターネット回線の整備など移住支援センターの活動の幅を広げていく中で、若年層のITベンチャーの起業家が多く移住した実績があります。こちらの話は私も事前にこの講演を聞く前にニュースで知っておりまして、神山町にかなりの移住者が来ているというのは事前に情報として持っていました。移住者がまた移住者を呼び、街を動かすキーパーソンとなっていき、移住者の皆さんが街のために何かしたいと、多様な人材が集まり知恵を出し合い、街をデザインすることで好循環のまちづくりサイクルが生まれている、との話でした。その地域の弱点を特徴に変える創造性が必要であるという言葉がとても印象的でした。

続いて14ページをご覧ください。パネルディスカッションでは徳島県内で活躍されている3団体が各団体の活動紹介と、テーマ「誰もが輝く well-beingの社会を目指して」に沿ったディスカッションがなされました。パネルディスカッションのなかで印象に残った点を2点あげますと、1点目は、「地域の課題を解決するためにはあの人この力を貸して欲しい」などいつも意識しながら活動し、多種多様な人々のつながりができているとのことでした。

2点目の「誰もが活躍できる社会とは」という問いかけに、合同会社RDNDの方は人々が対話できる環境づくりを心掛け、「人が活躍できるのは社会に居場所があること。そこに自分の出番があること。地域で場の共有が必要である。」とのことでした。コーディネーターのまとめとして、well-beingを高めるためには様々な場面で社会教育活動を行い、一歩ずつ歩みを進めること、歩みを止めないことが大切であるとのことでした。

以上で1日目の大会が終了し、2日目は私と委員が2つの分科会に分かれて参加しました。まずは委員の分科会での報告をお願いします。

委員

25・26ページをご覧ください。第2分科会① 社会教育委員の活動「山口市民の well-being の実現を目指す社会教育」ということで発表されました。まず山口市は隣接する5町と合併し、社会教育委員会は、合併後の2017年に再編し、1期2年で運営しておられます。各期の委員は15名程度で、会議は毎年6回前後実施、そして合議制を基本とした議論をなさっているようです。また、社会教育の中核をなすのは「地域交流センター」であるということをお知らせし、令和6年「山口市民の well-being を実現する社会教育」の実現に向け理念と方法について基本となる考え方を明確化しようとそこに書いてある14の要点をあげられております。その中でまず、一番言われたのが(7)学びの原点は、「自分自身を知り、他との交流によって、誰一人取り残さないより良い社会を形成することであり、これこそが社会教育や学校教育（教育は一つ）を通して学ぶ最大の目的である。」それから(14)です。「つながり」を意識した社会教育の場の効果的な設定が必要である、ということをお知らせしました。つながりが大事である、ということをお知らせしました。それから今後に向けてですが「well-being を目指す地域づくりと人の成長は社会教育の目的である。全ての市民がつながり、学び、成長することを理念とし、その意欲を堅持し次代に引き継ぐことが大きな課題である。特に Society 5. 0 の社会を生きる青少年に役割を引き継ぎ、学習を進めることが大切である。」山口市は社会教育の目的の明確化をうたっています。そしてここにたくさんの well-being とか Society 5. 0 等しっかり頭において社会教育をしていこうと、皆さんたくさんの会議を重ねていらっしゃるようです。

続いて次のページをご覧ください。徳島県の三好市社会教育委員の方が、『童謡「あめふり」の心を活かした居場所づくりの取組』と題して発表されました。活動は3点発表されました。(1) 放課後子ども教室での取組、(2) 高齢者教室での取組、(3) 地域での取組 というふうに、ここでは実践を発表されました。1番の理念とは違いますが、自分たちがやっていた実践ですね。

(1) の放課後子ども教室ですが、伝統文化の継承ということで地域にたくさんある獅子太鼓教室や茶道教室、学習教室など地域で活動されている方々が、子どもたちに関わってやっていたらいいですね。

(2) の高齢者教室ですが、①童謡「あめふり」の心でかるたを活用して人権教育の啓発に取り入れられています。②の茶柱の心とありますが、相手の心を傷つけない、迷信と捉えず教えと捉えて活動の中心として違った角度から見ることを大切にして、誰に対しても分け隔てなく接するように心がけているということをお知らせしました。

(3) 地域の取組ですが、世代間交流で小学校との連携があるそうです。日韓国際交流もなさっているようです。

成果と課題ですが、「あめふりの心」「茶柱の心」など身近であっても気付かないような内容の切り口で活動が居場所づくりの成果をあげていらっしゃるようです。課題としては活動ができていない住民にどれだけ広がっていかせるか、とおっしゃっていました。

	<p>今後に向けては地道ではあるが草の根活動を展開し、学者連携のもと高齢者・障がい者に優しく、自尊心を大切にすると同時に他者にも優しい地域づくりに努めていきたいと思うとおっしゃられていました。本当にここは一人ひとりの活動とそれが地域に繋がることをお話しされました。</p> <p>この2つの発表で助言者が言われていた事を話したいと思います。山口市ではwell-beingが地域で理解され、浸透しているようだ。会議を多く持ち、議論し提言されていて、体制作りができてるのが素晴らしい。また、何のために提言が出ているのかが大事である、ということをおっしゃっていました。三好では、息の長い交流、地道な活動は大事である、人の考え方を考えていただくけれども簡単なことではない、とにかくデジタルデトックス、デジタルを全く離れた生活をしていき、社会教育にwell-beingを根底にしていくことが大事であるとおっしゃいました。</p> <p>本当にこのような機会をいただき、ありがとうございました。以上で報告を終わります。</p>
委員長	<p>はい。それでは(3)第46回中国・四国地区社会教育研究大会徳島大会について復伝がありましたが、ご意見・ご質問等あればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>はい、それでは次第の3番目の報告事項(4)「第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会について」、報告をお願いします。</p>
事務局	<p>報告がありました中国・四国地区社会教育研究大会ですが、来年度は山口市で開催されます。</p> <p>来年度の開催に向けて、2月17日に県庁にて第1回目の実行委員会が開催され、委員長にご出席をしていただきました。資料は5になります。当日の協議について県から資料6のとおり報告を受けましたので、抜粋してご報告させていただきます。</p> <p>大会自体は今年の11月20、21日に山口県総合保健会館、セントコア山口を会場として開催すること、第2回の実行委員会を5月中旬に大会概要についての日程等について協議される予定ですので、7月か8月に予定している社会教育委員会議の際に詳細を説明させていただこうかと思っております。</p> <p>開催されましたら、委員の皆様におかれましてはご参加のご協力をお願いいたします。</p>
委員長	<p>はい、ではここからは本日会場となっている本山地域交流センターの施設見学に移ります。事務局、よろしくをお願いします。先ほど公民館表彰がありましたが、その現場等々見せていただけたらと存じます。それでは皆さんどうぞ。</p>
施設見学	
委員長	<p>それでは会議を再開いたします。4(1)「中学校の部活動地域移行に伴う生徒の居場所づくりについて」事務局よりお願いします。</p>

事務局	<p>学校の部活動は、中学生が自主的に参加し、教員の指導の下で行われてきました。この活動は体力や技能の向上だけでなく、異なる年齢の生徒や教員との良好な人間関係を構築する場となってきました。しかし、少子化による影響や、教員の働き方改革の進展により、従来の体制で部活動を維持することが難しくなっています。こうした背景から、文化庁とスポーツ庁は令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、段階的な地域移行を進める方針を示しました。令和5年10月には山口県が「新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を策定し、令和5年度から令和7年度までを改革推進期間と定め、地域移行の取組を進めています。本市でも、「山陽小野田市中学生の文化スポーツ活動体制整備基本方針」を策定し、地域の子どもは地域で育てるとの考えのもと、地域に応じた部活動の地域移行を推進し、生徒にとって望ましい文化・スポーツ活動の実施環境を整えることを目指しております。</p> <p>現在、令和8年4月からの学校部活動の地域移行に向け、今年度から休日における部活動の整備を図っており、令和7年度から毎週月曜日と水曜日の学校部活動を休養日とする予定となっていることから、これまで平日や休日に部活動をしてきた中学生の居場所づくりについて考える必要が出てきました。</p> <p>委員の皆様におかれましては、社会教育の視点からどのようなことをすれば、中学生の居場所づくりとなるかについてグループ協議いただきますようお願いいたします。なお、協議の時間は概ね20分間程度とし、その後情報共有させていただくため、代表者の方にグループで出た意見を発表していただきますようお願いいたします。</p> <p>学習、文化、運動、ボランティア等どんなことでも構いません。社会教育的なもので、皆様の豊富な知識と経験から、色々なご意見を頂戴できればと思いますので、よろしく申し上げます。</p>
委員長	<p>あの、もう少し具体的に説明していただけないことになったのですか。</p>
委員	<p>令和6年までは平日1日、土日1日の休養日がありました。令和7年から平日は2日、今言われました月・水がお休みで土日は今までどおりということで。平日の1日を2日にされた根拠はあるのですか。次の地域移行の準備のために2日休むようになったのですか。その点、教えていただけたら。</p>
事務局	<p>はい。教員の指導に関わって、部活動を教員が指導するには兼職兼業をしなければならないんですね。その兼職兼業するために今までのように4、5日していたら兼職兼業の条件に合わなくなる、細かい条件なのですが、時間的なもので。2日休みにすることでその条件をクリアしようということです。ですからある意味教師が兼職兼業しやすい環境を作っていくということです。</p>
委員	<p>従来どおりだったら時間が超えるからこれができんということですか。</p>
事務局	<p>はい</p>

委員	ご意見ありがとうございました。昨年の話し合いは生かされた、という評価と時間配分についてでした。事務局、よろしいですか。
事務局	はい。兼職兼業するための条件として教員の時間外が45時間を超えないということになります。従来どおりにしていたら、部活動の時間は時間外になり、45時間を軽く超えてしまうだろうということで、そうすると、兼職兼業が出来なくなります。そうなる中、指導者不足をしている中、指導者を確保できないので、1日減らすことで何とか45時間以内になるのではないかなというところで、今そういった形で減らしたところです。
委員長	このクラブ活動が土日休みで学校はあまり関わらないんでしょうけど、月曜から金曜までやっていたクラブ活動を今までは水曜日が休みでしたよね。午後。
事務局	そうですね。水曜日だけが休みで土日はどちらかをやっています。土日やっていないわけではないです。
委員長	それでは今度は月曜、水曜とそれから土日はどうなの？
事務局	土日はどちらかです。先程挨拶の中で言いましたが、部活の時間が無くなったことで、月曜、水曜は地域クラブ活動に移行している、そこに入っている子どもたちはそこで対応できるのですが、そうじゃない子が増えてくるだろうということです。それと部活動自体も昔は強制的にみんな入りなさいっていう時代もあったので、部活は入るもの、というふうになっていたようですが、今は部活動にはいらなくてもいいよというところもありますので、今市全体では9割くらい入っている。今後また減っていくだろう、子どもたちにアンケートを取ってみても、どうしても部活動に入るといふ子は7割くらいしかいないので、そうすると3割くらいの子は部活をしない、これまでは迷っていた子が「しなくていいんだ」というふうになってきます。そしてあふれた子供たちが何をするかということ考えた時に今のままでは居場所がないだろうと。そうしたところ、今日ご報告がありましたスタディールームじゃありませんが、そうしたところを子どもが集まって勉強したり本を読んだりとか、そういう動きができないかと考えております。そうすると社会教育でどういうことができるかというところで、是非この機会に皆様方に色々な意見を出していただけられないかなというところで議題に挙げさせていただきました。
委員	この話は2年くらい前から出ていますよね。地域移行の話は。私は学校での部活は全部なくなるというような話を聞いていて、色々あるクラブ活動が全部地域に移すという感覚でいたのですが。そうではないのですか。最終的には。
事務局	最終的なゴールがどこかということになると分かりませんが、最終的には地域に受け皿がある競技につきましては地域になると思います。学校の部活動も今のような部活動が無くなるかどうかは最終的には分からないのですが、予測としては学校としてのクラブ活動はないだろうと思います。まだちょっと中体連の色々な団体の兼ね合いがあるのでまだよく分からないところもあるのですが。

委員長	<p>私の孫が埴生中学校で剣道部、もう卒業するのですが、剣道がやりたいけど顧問がいないということで、一人だけです。一人だけだったら地域の試合にも出られないです。どうするかというと厚狭中学校にはあるということで厚狭中学校の方に名前だけいれてもらって、そして自分は美祢に行ったりあっち行ったりするのです。大人と一緒に練習したり、小学生との剣道の教室に行ったりしているのです。結局今、顧問の先生がいないのですけど。そういうことにだんだんくなっていくのかなと、思っているのですが。だから好きな人、やっている人、美祢に行くと上手な人を集めて上手に指導する先生がいらっしゃるようで、そこに行くと長門・下関・山陽・小郡の方から集まるそうです。それでチームを組んで県の大会に出るといい成績が取れるからみんな喜んでいる、だからそこに集まっていくということなのですよ。先生方も大変だから、野球もそうかもしれませんが、もしそうなった時にそれができる人は良いのですが、できない選手たちはどうするかということですね。</p>
事務局	<p>そうですね。そうしたことができない子どもたちを集めて剣道なら剣道ができればいいのですが、そうでない場合があると思います。そうでない場合に「じゃあこれをやろう、あれをやろう」という選択肢があるかということも重要だと思うのです。それと、運動もしたいが文化的なこともしたい、そうした子どもたちは今まではどちらかを選べという状況でしたが、それが地域で展開し、そういう場所があるということで子どもたちが選べる、という体制づくりができればと思っています。だからふわふわってという言葉が悪いのですが、「何かしたいのだけど何もできるものがない」ということが内容に色々な選択肢ができるように、色々な活動ができるように、そうしたものが準備できないかなということを考えています。全部の希望が叶うと思いませんが、やはり子どもたちが選んだり複数関わったり、居場所というところがあればそれが一番だと思います。</p>
委員長	<p>はい。そういうことだそうです。それでは皆さん話し合いをお願いします。</p>
<p>グループ協議中</p>	
事務局	<p>皆様、ありがとうございました。協議の時間が短くてなかなか意見がまとまらなかったと思います。結論は出ていないと思いますが、現段階でどのようなことが出たか、ということをお願いできますでしょうか。</p>
委員長	<p>こちらのグループは問題の入口にかかっただけで、あれこれという意見は出ませんでした。これから大事なことだろうけど、なかなか大きな問題なので結論が出ないというのが結論です。</p>

委員	<p>こちらもほぼ同じです。なかなか課題が多いというか、生徒がこれから移行していくのにいろんな問題があるよね、という話がたくさん出ました。でも中にはセンターでも居場所づくりも可能、新しいセンターは貸館、常に人が借りていて入るスペースはないだろうということもあるだろうし、また学校での居場所づくりもありなのかな、というご意見もありました。校庭解放的なことも部活だけではなくて違う内容で居場所づくりが可能ではないかという意見もありました。またご意見の中にもたくさんありましたが、居場所づくりを大人が考えるのではなくて、子供たちがそういった休養日を使って、部活に入っていない子供が何をしたいのかという意見を聞く場を設けていく方も大事じゃないかという意見もありました。アンケートを取るなり意見を聞くなり、どこでどういうことをしたいのか、子どもの意見を聞くことが大事という意見もありました。以上です。</p>
委員長	<p>個人的な意見ですが、せっかくセンター化になっているのですから、都会の夜学の塾なんかを入れたらどうですか。私東京の会議に行くとき会議後9時頃に電車に乗るのですが、そのころに東京の子どもはリュックを背負って電車に乗ってくるのですよ。塾帰りの子どもがたくさん。それが田舎でできれば。せっかくセンター化したのだから。そういうのをどこか、例えば市がAIを使い始めたときニュースで言っていたが、それをセンターに入れて使えませんか。</p>
事務局	<p>すみません、部活動の地域展開につきましてご意見いただきましてありがとうございます。今、委員長からもいただきまして、たぶん市民活動の方になると思うので、そちらの方にも伝えおきます。</p> <p>一番大切なのは子どもたちの居場所をどう作っていくのか、作り方の意見もありましたが、そうしたものがどれだけあるかというのが大切なので、それがないと確実に子どもたちは内にこもってしまうだろうという予測はあります。帰ってゲームばかりとか。そうした山陽小野田市の子どもたちはそれでいいのか、というところが一番の課題意識です。報告でもあげましたが、いかに人と繋がるかというのが重要かという報告がされている中で、その繋がりをどう作るか、そのために居場所をどう作っていくかという、社会教育の原点にもどることかもしれませんが、そういったところから関わっている我々で何ができるか、地域の子どもたちは地域で育てるとい言葉がありますし、そういったスローガンのもとでやっておりますので、地域の大人たちが自分たちならどんなことができるか、当然学校ならどんなことができるか、親ならどんなことができるかを考えなくてはいけないと思うのですが、そうした観点から色々と考えていただきまして、今後ご意見もたくさんいただけたらと思います。どうもありがとうございました。</p>
委員長	<p>はい、それでは皆さん、どうもありがとうございました。事務局にお返しします。</p>

事務局	<p>委員長、ありがとうございました。</p> <p>それでは最後に事務局からお知らせと報告です。 5その他になります。まず5（1）各地域交流センターの事業報告及び計画書（案）につです。資料は7、8になります。資料7は今年度にセンターで行っている主催講座の1月末時点での実績報告になります。資料8は、1月時点での来年度の計画になります。時間の関係で個別の紹介はできませんが、各センターで工夫を凝らして事業計画を作成しており、昨年度より充実した内容となっております。今後ともより充実した講座となるようセンターと一緒に検討してまいります。</p> <p>続いて5（2）令和7年度以降の社会教育推進の指針についてです。当日資料ということで、令和7年度社会教育推進の指針（案）をお配りしております。これまでは、毎年指針の見直しを行ってまいりましたが、微修正を加える程度の見直しで、今後は、市の教育大綱の改定に合わせて見直しをすることになりましたので、ご報告させていただきます。現在の教育大綱は令和3年度から7年度までとなっておりますので、教育大綱の改正がなされた時点で、委員の皆様のご意見をいただきながら指針の見直しをさせていただきます。</p> <p>最後に5（3）きらら交流館の所管替えについてです。</p> <p>現在きらら交流館は焼野海岸に設置された研修宿泊施設としてこれまで運営をしておりまして、令和5年3月1日から現在休館しております。今後はこの本山地域の素晴らしい景観を生かした観光交流拠点の位置づけとして、今整備計画が進められております。その関係で令和7年4月1日から教育委員会から離れまして、市長部局のシティセールス課の方で所管することとなりましたので、ご報告させていただきます。</p> <p>連絡は以上となります。最後に来年度の協議議題について皆さんの方からこういうのがあればいいんじゃないかなというのがありましたらお聞きしたいなと思うのですが、何かありますでしょうか。ないようですので検討させていただきながらまたご案内させていただきたいと思っております。</p> <p>それでは閉会の挨拶を、社会教育課長より申し上げます。</p>
社委員長課長	社会教育課長あいさつ
事務局	<p>以上をもちまして第2回社会教育委員会議を終了したいと思います。皆さんお帰り際には、お忘れ物のないよう、また交通安全にお気をつけて、お帰り頂けたらと思います。ありがとうございました。</p>